

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271300404		
法人名	有限会社 よしおか		
事業所名	グループホーム あじさいの家		
所在地	長崎県諫早市飯盛町後田 1643-1		
自己評価作成日	平成23年 1月 11日	評価結果市町村受理日	平成23年 2月 23日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島二丁目7217 島原商工会議所1階
訪問調査日	平成23年 1月 31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

介護についても、食事面についても、特に力を入れるとかではなく、入居様が普通に家で過しておられる雰囲気が出せるように工夫をしている。それと、入居さまがケガをされたり、風引いたりされないように最新の注意をはらっています。おかげで骨折などで入院された方はいらっしゃいません。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

あじさいの家の名称の由来は、一つ屋根の下で利用者と職員一人ひとりが、寄り添い支えあって生活する普通の家となるように、代表者があじさいの花に想いを託している。代表者を始め、職員、利用者の多くが地元住民であるため、事業所を取り巻く環境全体が地域に根ざし、近隣の方が気軽に訪ねて来られたり、野菜のお裾分けやお土産を頂くこともある。また、職場体験で訪れた中学生が、その後、気軽に事業所におやつを持ってきたり、台所で蒸しケーキを作ってもてなし、利用者が喜ばれる光景から、事業所が地域で馴染みの場所となっている事を窺うことができる。飾らない主婦的な、家庭的視点の生活感覚に溢れた暖かな支援に、今後ますます期待できる事業所である。

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域とのつながりを大切にその人らしく、暮らして行ける様に職員一同理念を共有して、生活していける様に努力している。	理念実現のために、具体的な介護の心得を4項目掲げている。家族の方からは、日常の支援や会話の中で理念、心得を实践されている姿を感じ取る事ができるとの有難い言葉を頂いている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホームのイベントがあるときなどは地域に声かけている。又特養いいもりは近くにあるので、夏祭りや他の行事も招待して下さる。	ボランティアとして訪れていた地域の青年がその後、職員となり日々利用者の支援に励んでいる。代表者は在宅ヘルパーとしての経験から、地域の情報を熟知しており、地域との交流の中で相談を受けることもある。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近所にすんでいる高齢者の方々の認定の仕方の相談や、介護方法など相談に応じている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	H22年度4月から、6月、8月、10月実施済み23年1月、3月、実施予定。地域の自治会長、民生委員、老人会の会長、消防署分署長、特養施設長、諫早市支所などから参加して頂きサービス向上に努めている。	2ヶ月に1度開催されており、参加メンバーの方から活発なご意見や地域のイベント等の情報を得ている。家族間や地域の方同士の交流の場としての役目も果たしている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	機会あるごとに市や支所の担当者と書類など制度上の問題など相談にいける。又町内の老人会の人達がタオルやおかしをもってきて下さる	利用者の暮らしの様子や支援の取り組みを機会があるごとに伝えており、疑問や質問があれば気軽に相談できる関係を築けるように、連携を深めている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関や他の出入り口の施錠はしていない。また過去にも施錠はしていない。	利用者の安全を確保しつつ自由な暮らしを支援するために、会議や話し合いの場を設けて、一人ひとりの予測されるリスクを検討し、日頃から意識して取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待はありえない。言葉使いには注意をしているが、方言を使って親しみがもてる様に接している。地域的なことがあり、職員とも十分話し合い、一人で抱え込まないように協力しあっている。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	機会あるごとに職員への説明を行っている。対応が必要な入居者様は現在はおられない。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を結ぶとき十分な説明はしている。家族の納得の行くまで話し合うようにしている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の不満や要望は、職員がいち早く気付いて対応している。家族からの要望もきがるに相談していただけるような雰囲気になっている。	利用者一人ひとりに対し連絡ノートを作成し、家族と職員の間で活用している。ノートのお陰で気軽な世間話をすることもあり、利用者や家族との関係の再構築に繋がったケースもある。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングの場や毎日の申し送りのときを利用して意見を出してもらうようにしている	職員へ無記名アンケートを行い、何でもいから日頃の気づきを書いて貰ったり、会議において職員からの意見を検討し、トイレの手すりを設置する等、代表者は職場全体を把握することに努めている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に一度ミーティングの時に勉強の時間を取り入れて、研修にいった職員に発表をしてもらい意見交換をしている。又、研修には職員の勤務年数に応じて会社のほうから行けるようにしている。又、本人の行きたい研修には希望をとりいれている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定例の交流会に参加をして他の施設の職員と意見交換をする機会はある。諫早GH連絡協議会でのボーリング大会にも参加している。GHごとの新聞の発行のときの原稿も書いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	一日の内で機会あるごとに横に座り世間話や昔話をしながら信頼関係を作るようにしている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	重大な病気など発症したときは家族同伴で病院に行き良い方法を考えるように努力している。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	努めている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	相談はいつでも受け入れる様対応している。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	築いている。イベント時には招待して一緒に過ごせる時間を持てる様配慮している。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の方であれば妹弟や友達に電話をしたりして遊びに来ていただけるよう支援している。	利用者が家族の方とゆっくり過ごせる時間を提供するために、家族にケアのアドバイスを行う等協力を惜しまず、お正月に自宅に帰る支援を行っている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	昼間はほとんどりビングに集まって来られるので孤立はされていない。職員がいつでもフォロー出来る様に努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	取組みを行っている。家族が遠くて関係を断ち切らない限り、退去された後も自然なつきあいをしている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望で出来る事は取り入れている。困難な時は家族と相談するようにしている。	意思疎通が困難な方に対しては全身で表現を行い、利用者9人のそれぞれの世界(これまでの生活暦を含めての思いの把握)に入る事を大切にしながら支援に取り組んでいる。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者様の生活歴は入居時家族から聞くようにしている。入居時に出して頂く書類に書き込んでもらい、職員もみられるようにしている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日のながれを日誌に書き込み申し送り時に報告するようにしている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護作成担当者と共に色々な意見を出し合いそのひとにあった介護計画を作っている。	試行錯誤しながら、様式を含めて検討を行う中で、毎月のミーティングで職員全員で気づきを出し合い、プランを意識した個別の記録に取り組んでいる。	職員全員でケアプランに関わる事ができるようなくみ作りを行い、今後一層、現場の声が反映するようなプラン作りになる事を期待したい。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日誌や個別記録に記入している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	取組みを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所にある老人ホームと交流している。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	適切な医療は受けられている。その人の病気に応じた病院で治療がうけられる様に支援している。	利用者、家族が希望するかかりつけ医の受診に同行しており、必要に応じて家族に同行をお願いする事もある。受診の際は、結果を病院受診ノートに記入し、家族への報告は勿論の事、職員間の共有にも努めている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師はいないが全ての職員が、体調や些細な表情を見逃さないよう、早期発見に取り組んでいる。主治医に定期的に受診を実施して適切な医療につなげ、アドバイス等受けている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	管理者が入院先の担当医師と直接話し合い情報交換を行っている。そうした場合の関係づくりはできている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	段々高齢化してきているので家族と相談しながら事業所で出来る事は職員一丸となり支援している。	状態を見ながら段階的に利用者、家族、医師、職員で話し合い、随時意思確認を行い、事業所が対応可能な最大のケアの中で、その方に何をしあげられるかを一番に考え取り組んでいる。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的には行っていないが災害対策時の訓練の時に練習している。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	職員の連絡網を作り、そのほか火災や水害が起きたときの為に入居者が避難出来る様地域の人達に協力してもらえる様に頼んである。	年に2回の訓練を行っており、そのうちの1回は消防署の立会いの下、訓練を行っている。災害時の避難後の支援についても、再度持ち出し品を含め検討する予定である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーの確保は出来ている。トイレのときのひざ掛けや脱衣所から浴槽に行くときはバスタオル等をかけるようにしている。	利用者が理解しやすい方言でゆっくり話し、利用者が喜ぶことを見つけるように努めている。居室の押入れをカーテン式収納に工夫することで、ポータブルトイレの目隠しの配慮をさりげなく行っていた。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その人の生活歴を把握してそれにあった言葉賭けをしている。本人にわかるように説明してから自己決定が出来る様に支援している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホーム側の都合は優先していない。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	春夏秋冬季節の変わり目にはタンスの整理をしている。理美容や着る服は本人の好みが反映出来る様に支援している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事の前準備や、おやつ作りなどは工夫しているその人の能力にあった下ごしらえなどもして頂いている。	職員と利用者が同じテーブルを囲み、和気藹々と食事をする雰囲気大切にしている。ゴボウのさきがけ等、残存能力を活かしたお手伝いをして頂いている。お正月には代表者が、具雑煮をもてなし喜ばれている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	支援している。太りすぎない様にならないような市支援をしている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアは実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その人に応じた排泄方法で行い昼間はなるべくパンツで過ごして頂くようにしている。	排泄チェック表を利用し時間誘導を行い、昼間は布パンツにパット類にて利用者に合わせて対応している。夜間のみポータブルを利用の方もおられるが、声かけを行い、トイレでの排泄を大切にしている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の予防と対応は常に実施している。医師と相談し献立にも気を付けて調理をしている。水分補給は常に気がけて飲水貰っている。トイレチェック表に記入している。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は 月水金にしている。出かけたりしたときはその儀にあらずで個々にあった支援をしている。	利用者の状態に合わせて臨機応変に対応している。家族から利用者の肌のトラブルが減り感謝の言葉を頂いている。仲の良い利用者同士と一緒に入られる事もある。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は殆どリビングですごされるが本人が希望されれば居室にて休息が出来る様に配慮している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬支援については医師の指示通り実施している。病状に応じて薬が変わったときは直ぐに伝達して病院ノートにも記載して間違わないようにしている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力に応じた仕事など本人のヤル気を聞いて気分転換をはかっている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよ支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節によって花見に行ったりドライブに行ったりしている。	家族と一緒に外出する機会を大切にしており、温泉の家族湯にお連れしたり、外食を兼ねてドライブにお連れする事もある。日頃から、外気に触れて頂けるように、近くを散歩したり、花に水遣りをして頂いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理が出来る人には、美容院や買い物に行ったときは支払いをしていただくことがある。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	毎日電話をかけてくれる家族がある。かかって来ないときは心配されるのでかけられるように支援している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関は段差なし。共有空間には不快な思いをさせないように置物や、温度には十分配慮している。	職員は、利用者の一人ひとりの個性を把握して、利用者同士が仲良く過ごせるようにソファの位置等を工夫し、常に心配りをしている。温度や湿度にも気を配り、日中はほとんどの方がリビングで過ごされている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自分の意思で自由に過ごせる工夫をしている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊りの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や自分が家から持ってきた物を居室に置いて自分の居間である確認をしていただくように工夫している。	面会に来られた家族にもゆっくり過ごして頂けるように、フローリングの部屋に畳を敷く等の工夫が見られる。仏壇や写真、思いでの品々が持ち込まれ、利用者の生活暦を感じられる居室となっている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	工夫している。		